

囲碁入門講座通信 令和 2 年 第 23 号



報告:有楽斎

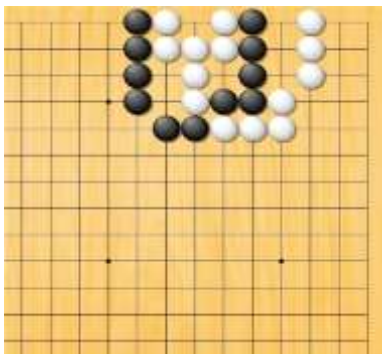
毎月第二日曜日の午後 1 時半から午後 4 時ごろまで、朝日 2 丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。(棋士名は椿に因んだ名をニックネームとして表記しています)

今号も、入門者用に囲碁用語を少々ご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

囲碁用語 攻め合い(セキ、眼あり眼なし) ②

攻め合いとは、生きていない石同士が「取るか取られるか」の状態になっていることです。しかし、どちらからも手を出せないセキという平和的な結末になることもあります。また、コウというやっかいな戦いになることもあり、ちょっとした手順の誤りで取れる石が取れず、逆に取られてしまうということもよくあります。今回は前号の攻め合いの基本中の基本である、「外ダメから詰める」につづき「**眼あり眼なし**」について解説をします。

眼あり眼なし



問題図(黒番)

黒番で結果はどうなりますか？

黒が白石を取るには、あと 4 手かかります。一方、白も黒石を取るまで 4 手ですから、黒番なら白を取れそう？ でも、そうはならないのです。

理由は、白には眼が一つあること、そして内ダメが一つあることです。



黒、押す手なし

黒 1 から白 4 まで、お互いに外ダメを詰めました。もう分かりますね。この後、黒は a と打てません。これが典型的な「眼あり眼なし」の図です。白は終局まで、b から白石を打ち上げる必要はありません。

なお、眼あり眼なしでも、黒の外ダメがもう一つ多ければ、黒 5 で a と打てますから黒勝ちです。格言の「眼あり眼なしは唐(から)の攻め合い」は例外が多く、当てになりません。「注意しましょう」という程度です。

まとめ(ダメを詰めるだけの攻め合いの場合)

- ① 解説を省きましたが、内ダメがなく外ダメを詰めるだけの攻め合いでは、外ダメの多いほうが攻め合い勝ち。同数なら、手番になっているほうが勝ちです。
- ② 内ダメと外ダメがある場合は、先に外ダメを詰めて、最後に内ダメを詰めるのが原則です。
- ③ 外ダメの差がなく、内ダメが 2 つ以上あるとセキになります。なお、外ダメの数に差があっても、内ダメが多いとセキになることがありますから、双方の外ダメの数の差と内ダメの数を数えて、セキになるかどうかを確かめる必要があります。